

三国川、もう一つの溪から下津川山へ

## 越後 三国川下津川本谷

棚橋

【日時】 2007年10月6日(土)～8日(月)

【メンバー】 栗原(L)、棚橋

仙ノ滝沢、銅倉沢と、今年3本目の三国川流域の遡行である。この溪からも下津川山に登りたいと思っていたが、優先順位は沖クボ沢の方が上だったため、計画する機会すら得られなかった。しかし漸く銅倉沢も遡行することが叶ったので、下津川本谷遡行の順番が回ってきた。

10月6日 晴れ

隔週にて3回目の十字峡であるが、大分冷え込むようになった。複数のパーティが見受けられるが、沢登りは我々だけのようだ。まずは、下津川を横目に見ながら林道を歩く。この辺りは下流部とあって水量も多い。そして取水堰から先は、右岸沿いの踏跡を辿る。沢に出た所でインゼルを左に進む。また暫く踏跡を辿った後、沢に出たのでそのままゴーロを進むとゴルジュに出くわす。たぶん手前に巻き道がついていたのだろうが見落としてしまったようだ。仕方ないので寒いが、泳いで通過する。ネコブ沢手前のゴルジュは左岸より容易に巻く。暫くゴーロを進むとシクノ沢が1:3



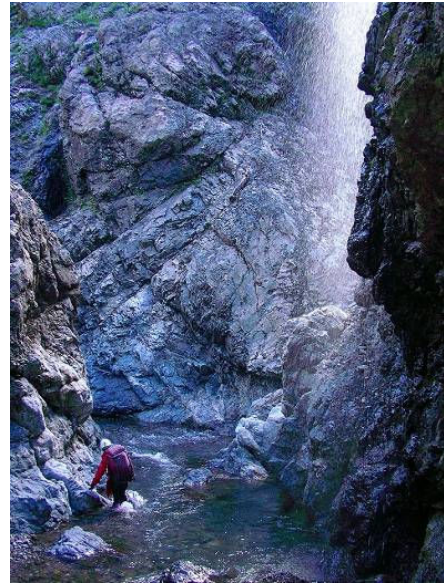
いきなり泳ぐ

で右岸より流入し、その後も川原となっている。野地平と呼ばれる辺りであろう。その先はゴルジュとなっており、その中のナメ滝は左岸から巻いて通過する。2条2m滝を越えると小沢と出合う。

滝を持つ支沢が右岸より2本ほど入り、更に3m滝を越えると魚止滝8mが懸かる。登れないので巻くことにし、右岸より取り付く。左壁の上部には残地ハーケンにシュリングゲがしっかりと付けられているので、有り難く利用させていただく。おかげで容易に落ち口へと下り立つことができた。またもやゴーロを進むといよいよ屈曲部のゴルジュ帯に突入となり、側壁が立ち、日も当たらなくなってくる。中は小滝が続き、出口の8m滝は左壁から越える。三ツ石沢が左岸より15m滝にて合わさると、沢は左に曲がる。例年この辺りは雪溪が残るようだが、今年は欠片も無かった。大岩の先の滝が登れないので右岸より巻き、そのままゴルジュも越えてしまう。沢に戻ると右から南沢が合わさり、穏やかな溪相となる。左岸の1段上がった、中でも最も良さそうな所にツェルトを張り、薪の豊富な川原にて焚火を盛大に行う。

10月7日 晴れ

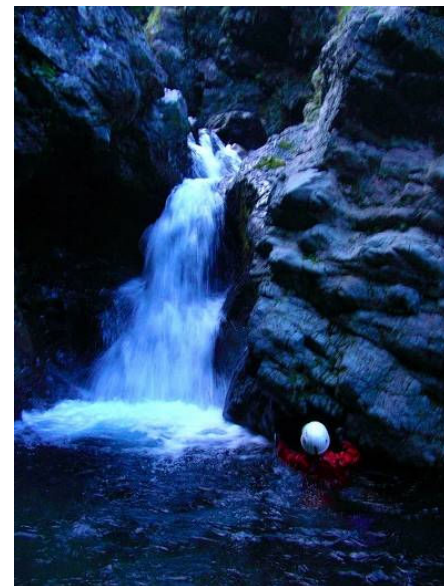
快適な幕場のためか寝坊してしまっただが、6時過ぎには出発する。宿沢の手前よりゴルジュが始まり、出合の先にて3mハング滝が現れる。登るとすれば右側が滑り台状になっているので、そこからであろう。ただし下部に足掛かりが無さそう。先人達の突破方法は腹まで浸かってナッツでA0とか、ショルダーとかいろいろのようである。先ずはリーダーがナッツを準備して取付に向かうも、いきなり泳ぎが強いられる。何とか取付に辿り付くも、右手で岩に掴まりながらでの立ち泳ぎではナッツを決めるクラックまで届かない模様。加えてこの寒さのため、あまり長時間粘ることも叶わず、敢え無く敗退。更に観察しても登るとすれば今の場所しか思い浮かばず、勝算は五分五分と思いながらも私もチャレンジ。私もリーダー同様、片手の離せない立ち泳ぎ姿



三ツ石沢手前のゴルジュ

勢ではカムもあと一步のところ決められず、これまた敗退。3m滝と高巻きを計りにかけると再トライしてみたい気持ちはあるものの、これ以上体を冷やすのはリスクが大き過ぎるので左岸より巻くことにする。そして懸垂20mで沢に戻る。

続く3m滝の先の6m直瀑は登れないので、右岸より巻くが意外と悪かった。少し進むと魚止沢出合であるが、手前の6m滝が厳しそうなので左岸から巻くことにする。スパイクを履いて取り付いたものの、薄い草付きと手掛かりの乏しい露岩帯となり、かなり悪い。小指ほどの灌木で、落ちないことを祈りながらビレイするしかないかと思っていたが、フリーで栗原さんが乗り越え、お助けヒモを垂らしてくれる。ここが3日間の山行で最も悪い箇所であった。安易に取り付いてしまったが、ここはロープを出して登るべきであった。滝を更に3つほどまとめて巻き、絶妙の箇所より沢に戻る。



ハング滝に泳いで取り付く

南沢を1:1にて右手に見送ると上部が開け、先の大滝と共に紅葉が始まった稜線が眺められる。滝を3つほど越えると両門の滝、しかも大滝が現れる。進む左俣に懸かる滝は、40mはあろう。とても登ることなど叶わぬ直瀑である。ここは登れる右俣の30m滝を途中まで登り、傾斜の緩んだ辺りから左俣目指し、灌木を拾いながらトラバース。最後は懸垂20mにて沢に戻る。所要時間40分ほどである。ここで番手沢パーティとの交信時間が近づいたが、一本取ってもまだ定時まで10分ほどあるので出発する。ここから先は5mクラスの滝が次々と現れて忙しくなり、気がついた時は交信時間を30分ほど過ぎてし

まった。

ガレルンゼを左に見送ると35mスダレ滝、15mm2条滝が連続して現れる。その先も5～8m滝が次々と現れるがお助けヒモすら出さず、サクサク進む。しかし途中の6m滝にて、ガバは有るもののスタンスが乏しく、しかもヌメルため、仕切り直そうとした際に私が3mほど滑落。幸い無傷であったが、少人数パーティであるので大いに反省させられた。

その先の奥の二俣は、右俣を進む。小滝を越えると、まもなく水流が乏しくなる。この辺りで強引に幕場を探す選択もあるが、どうも明日の天気が芳しくないので、下津川山は越えておくことにする。沢型はある程度ハッキリしているものの、結構登り辛い滝が現れるので、早めに沢から離れたがこれが大失敗で、濃い藪に泣かされることになる。「こういう所ではスパイクを無くし易いので気をつけよう」と言っておきながら、自分が無くすことになるとは夢にも思わなかった。



両門の滝を臨む

散々探して私が山頂に着いた時には、栗原さんはツエルトを被っており、大分待たせてしまったようだ。風が強いので山頂より少し下り、風が当り難く、できるだけ平らな場所を探して、笹藪の中にツエルトを広げる。夜も更けると風が収まったが、朝が来る前には雨が降り出した。

10月8日 雨時々曇り

出発する頃には、雨はほとんど気にならない位の降りになる。視界がそれほど悪くないのが救いだ。稜線を外さぬように注意を払い、また休憩すると寒いので、ほとんど休むこともなく小穂口ノ頭に着く。ここからは安全地帯。一度の休憩を挟み、昼前には十字峡に辿り着く。

8月以降は天候に恵まれることが多く、三国川流域の遡行も目標を大幅に上回った成果を挙げることができた。残る沢は難易度が高いが、何とか遡行したいものだ。まだまだ終わらない、三国川。

【グレード】 4級

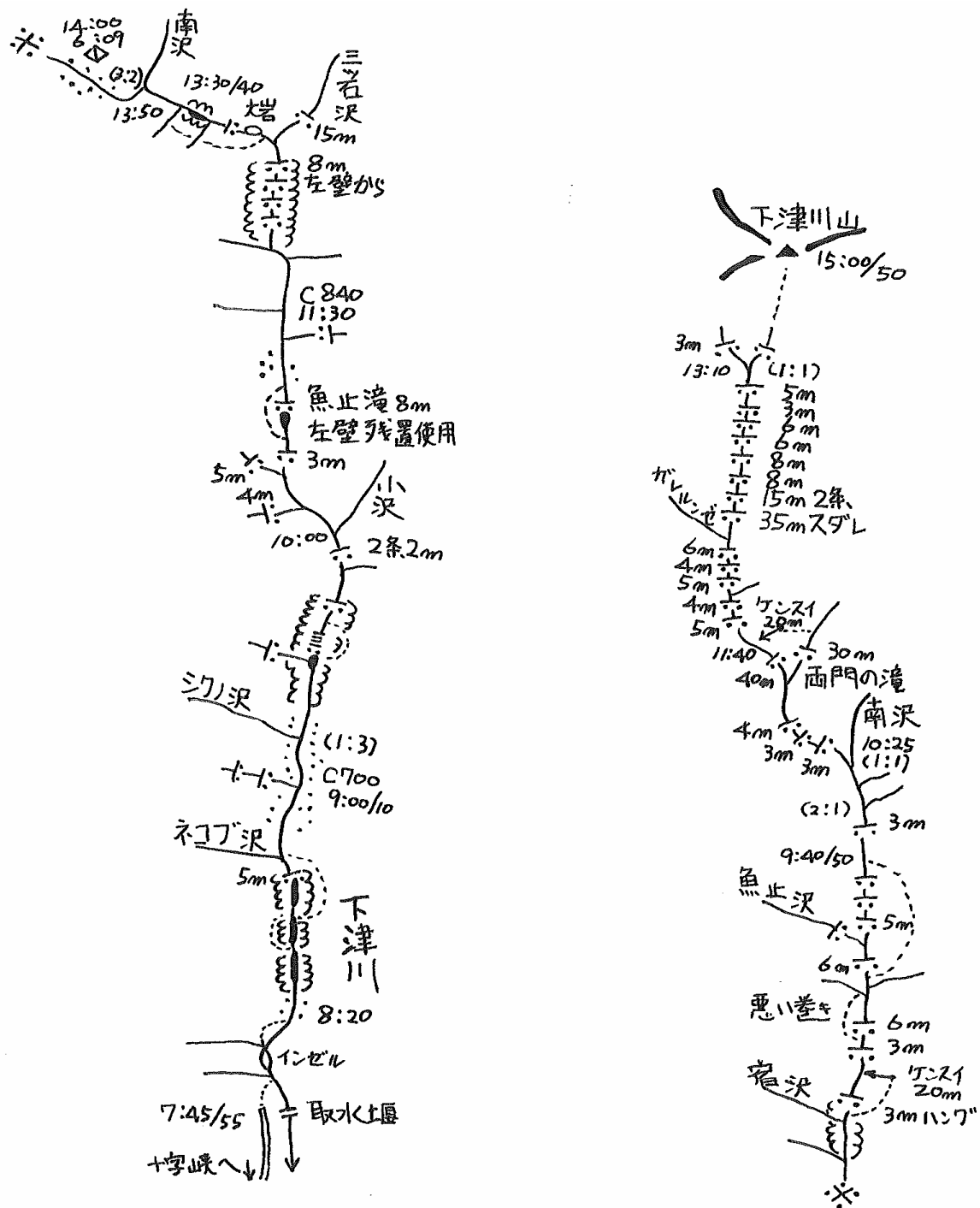
【行程】 10/6 十字峡(7:00)～取水堰(7:45/55) ～シクノ沢出合(9:30)  
～小沢出合(10:00)～三つ石沢出合(12:30) ～南沢出合(13:50)  
～c1040付近(14:00)

10/7 幕場(6:10)～魚止沢出合(9:00)～南沢出合(10:25)  
～両門の滝下部(11:00)～両門の滝上部(11:40/50)～奥の二俣(13:10)

～下津川山(15:00/50)～幕場(16:00)

10/8 幕場(6:10)～小穂口ノ頭(8:40)～林道(10:35)～十字峡(11:30)

【地図】 兎岳、オリ根湖



越後／三国川下津川本谷  
 【日時】 2007年10月6日(土)～8日(月)  
 【メンバー】 栗原(L)、棚橋  
 【作図】 棚橋